

平成29年度

中学生と赤ちゃんふれあい事業



船橋市健康福祉局子育て支援部地域子育て支援課・児童ホーム

目次

はじめに		2
------	-------	---

事業概要		3
------	-------	---

●中学校別事業報告●

宮 本中学校		7
--------	-------	---

海 神中学校		11
--------	-------	----

葛 飾中学校		16
--------	-------	----

旭 中学校		20
-------	-------	----

高 根中学校		24
--------	-------	----

金杉台中学校		28
--------	-------	----

二 宮中学校		31
--------	-------	----

芝 山中学校		35
--------	-------	----

七 林中学校		39
--------	-------	----

豊 富中学校		43
--------	-------	----

はじめに

平成16年に1校で始まった「中学生と赤ちゃんふれあい事業」は14年目を迎え、今年度は10校で実施し、無事に終了することができました。これも、各関係者のみなさまのおかげと感謝申し上げます。

次代を担う生徒たちが、この事業を通してたくさんの赤ちゃんやその保護者、地域の方々と出会い、ふれあい、交流することで、赤ちゃんの愛らしさや命の神秘に感動するとともに、様々な体験をしたことと思います。

そのような中で「中学生と赤ちゃんふれあい事業」をより多くの方に知ってもらいたいと思い、この冊子を作成しました。この事業は、各学校をはじめ、多くの方の協力により行われている事業であり、冊子を手にした方が、事業に興味や関心をもていただけたら幸いです。

これからも1人でも多くの生徒が「中学生と赤ちゃんふれあい事業」に参加することで、命を大切にする心や育ててくれた親への感謝の気持ちを抱き、将来親になったとき、この事業で学んだことを少しでも役立ててくれることを願っています。

事業概要

「中学生と赤ちゃんふれあい事業」は、中学生、赤ちゃんとその保護者に参加してもらい、中学生が赤ちゃんを抱っこしたり、一緒に遊んだり、保護者から子育ての話や出産にまつわる話を聞いたりして交流する事業です。

命の大切さを理解し、基本となる知識を身につけてから赤ちゃんといれあうことを期待して、次の4つの講座を組み合わせ実施しています。

1. 「講話 大切な命」

助産師による講話です。学校の授業枠1～2時間を利用し、命が宿る様子や胎児の成長について学びます。

講話の主な内容

- ・赤ちゃんがお腹に宿るまでの過程を知る
- ・お腹の中の赤ちゃんの様子を写真や人形を見ながら学ぶ
- ・お腹にいるときの赤ちゃんの心音と生徒の心音を聴き比べる
- ・赤ちゃんが生まれてくるときの様子を知る
- ・赤ちゃんが生まれる際の産声を録音したテープを聴く
- ・思春期の心とからだの成長について
- ・生まれてこられなかった命について
- ・妊娠や性感染症におけるリスクの話

命が宿ってから生まれるまでの胎児の成長について学ぶことで、自分や他者の命の尊さ・大切さを、改めて知ることを目的としています。



2. 「赤ちゃん講座」

学校の授業枠 1 時間の中で、助産師の指導のもと、地域の方や生徒の保護者の方にも手伝っていただきながら赤ちゃんのお世話の仕方を実習形式で学びます。

主な内容

- 新生児の特徴、お世話の仕方についての講義
- 新生児とほぼ同じ大きさ、重さの赤ちゃん人形を使って、抱き方・着替え・オムツ替えの体験実習
- 妊娠8か月頃をモデルとしたジャケットを着用しての妊婦体験

赤ちゃん人形を使った体験学習を通して、お母さんや妊婦さんの気持ちを理解することを目的としています。また、自分も同じように大切に育てられたことを知る機会にもなります。



3. 「新生児訪問」

ご協力いただいた市内の産婦人科を、希望した生徒が訪問します。

主な内容

- オリエンテーション
- 新生児室見学
- 新生児親子と対面、自己紹介、出産を終えたお母さんから話を聞く
- 新生児親子とのふれあい

生まれたばかりの赤ちゃんを抱かせてもらい人形とは違った赤ちゃんのあたたかみや命の重み、誕生の喜びを知ることができます。

出産を乗り越えたばかりの母子にふれ、子どもに対する親の愛情を感じ、自分も大切な存在だと気づくきっかけとすることをねらいとしています。



4. 「赤ちゃんふれあいタイム」

児童ホームを利用している赤ちゃん、お母さん、お父さんとふれあい楽しく交流する時間です。

主な内容

- ・ 保護者から育児の話や赤ちゃんに対する思いを聞く
- ・ オムツ交換やミルクをあげる体験をする
- ・ 小さい子を抱っこしたり、あやしたり、一緒に遊ぶ

実際に赤ちゃんとはふれあう体験を通して、赤ちゃんのかわいさを実感し、愛情を持って子育てができる心を育みます。また、赤ちゃんの保護者からの話を聞いたりオムツ替えをしたりすることで、育児の楽しさや大変さも体験します。



中学校別事業報告

宮本中学校

講話 大切な命

1) 実施日 平成29年6月28日(水)

参加者数 3年生 290名(8クラス)

講師 佐藤美保子助産師

2) 当日の様子



① 「クイズです。30代前までさかのぼると、あなたには何人のご先祖様がいらっしゃるでしょう？」答えを知った生徒からは驚きの声が上がりました。

② お母さんのお腹の中にいる赤ちゃんの心臓の音をテーブで聴きました。手首を押さえて、自分の脈拍と速さを比べながら聴いていました。

③ 休憩時には、赤ちゃん人形の周りに生徒がたくさん集まっていました。

3) 生徒の感想

- ・自分の命は自分だけのものではなく、命を繋いでくれたお母さん、繋いできてくれたご先祖様たちのものでもあったと感じました。だから今日、ほんの少しでも自分も命を繋げていきたいなと思いました。将来、命を授かった場合、大切に育てて、命を繋ぐことはすごいことなんだよと教えられるようになりたいです。
- ・「私」ができるまでにいろいろな奇跡が起こっていることがとてもよくわかりました。あんなに小さいものから今の私になったことに一番驚きました。赤ちゃんの産声は「自分はここだよ」「今から生きるんだよ」と覚悟を示しているように聞こえました。
- ・性の話の中で、女子でも男子でも大変なことがあるのは一緒なんだと思い、少しでも安心しました。「何か困ったらここに相談したらいいよ」と教えてくださって、より安心しました。
- ・普通に生まれることが、普通ではないことを知りました。染色体のバトンではなく、自分が生きることによって受け継がれる「命のバトン」があることに驚きました。

赤ちゃん講座

1) 実施日 平成29年7月5日(水)、6日(木)、7日(金)

参加者数 3年生 289人(8クラス)

講師 佐藤美保子助産師、伊藤志保助産師

協力団体 宮本地区社会福祉協議会

2) 当日の様子



① 助産師が、赤ちゃんの特徴について話す姿をまっすぐに見つめる生徒たち。最初は少し緊張した表情の生徒もいました。

② たくさんのボランティアの方にサポートしてもらいながら実習を行いました。妊婦体験では、そのお腹の重さに男子生徒もびっくり！

③ 授業が終わるころになると、生徒の優しい笑顔が教室のあちこちで見られました。

3) 生徒の感想

- 赤ちゃんが生まれるもっと前から、お母さんやお父さんが一生懸命、面倒を見ているのだと気づきました。私が生まれたときも同じように、大変な思いをしながら今に至っていると思い、改めて感謝したいと思います。
- 自分が今ここにいるのは、たくさんの人が私を宝物のように扱ってくれていたからで、そのことを考えると何とも言えない気持ちになりました。また、親の偉大さを改めて感じました。
- 私は大人になったら母親になりたいです。大切に育てられて生きている私のように、私も自分の子を育てたくなりました。
- 自分も含むみんなが、人形の赤ちゃんだったにも関わらず、とても楽しそうにお世話の練習をしていたのが、記憶にすごく残っています。自分がこのぐらい小さかったときに、こんなにも丁寧に扱ってもらっていたのかと思うと、うれしいような、そんな気がします。

4) 地区社協ボランティアの感想

- 大切に育てられたことを知ることが、自分や他者を大切にすることに繋がるのだと実感しました。将来、パパ、ママになったときにきっと役立つと思います。

赤ちゃんふれあいタイム

1) 実施日 平成29年8月1日(火)

場 所 宮本児童ホーム

参加者数 生徒14名、乳幼児親子18組、教員3名

2) 当日の様子



- ① 今回は男子生徒も多く参加してくれました。まずはグループに分かれてお互いに自己紹介です。生徒たちも赤ちゃんも、まだ少し緊張気味の様子です。
- ② 赤ちゃんとの距離がだんだんと近づいてくると、お母さん方に手伝ってもらいながら、抱っこに挑戦です。赤ちゃんが顔を見て笑ってくれた瞬間、生徒からも笑顔があふれます。
- ③ 哺乳瓶でミルクをあげる体験をさせていただいた生徒もいました。「赤ちゃんって、思ったよりパワフルにミルクを飲むんですね」とお母さんに感想を言っていました。
- ④ 最後は赤ちゃんをひざの上に乗せて、音楽に合わせて遊びました。最初の緊張していた顔が嘘のよう。赤ちゃんとの生徒、お互い笑顔の中、とてもあたたかい時間が流れていました。

3) 生徒の感想

- ・抱っこをさせてもらい、顔を見て笑ってもらえたときは「やったー」と思い、ハイタッチしてもらえたときはうれしさが爆発しました。また、赤ちゃんがどんなときも、じっとママの顔を見ているのを見て、ママのことが大好きなんだなと思いました。私も今は反抗期だけど、こんな時期があったんだなと思います。

- ・どの赤ちゃんもとてもかわいくて、身近に小さな子や赤ちゃんがいないので、今日この時間でたくさんの赤ちゃんとふれあえて良かったです。おもちゃで遊ぶと、すごい笑顔でこっちを見てくれて、それがすごく印象に残っていて、今でも忘れられません。
- ・お腹が空いたのか、ぐずぐずすることもあったけれど、くすぐったりさわったりするとニコニコしてくれて、好かれることができたと思ってうれしくなりました。私たちが子どもを好きになれば、子どもたちも私たちが好きになってくれる。子どもが好きじゃないという人もぜひ、赤ちゃんとふれあった方が良くと思います。
- ・全員を抱っこして回りたいくらい、かわいかったです。優しいお母さんたちのサポートで最後は抱っこまでできました。小さい子たちだけでなく、お母さんたちとも仲良くできて良かったです。

4) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・普段、接することのない中学生の方と交流することができて、母親の私も、息子も、とても新鮮で刺激的な時間を過ごすことができました。中学生の方は、とても丁寧に一つひとつの動作を行ってくれて、また、優しいまなざしで息子と遊んでくれました。今回の経験が中学生の今後の将来や、妊娠、出産、育児に少しでも役に立てたら、この上ない喜びだと思います。
- ・人見知りで泣きまわったりしたにも関わらず、かわいいと言ってくれたり、あやしてくれたり、想像以上に赤ちゃんとしっかり向き合う中学生の子たちを見てうれしく思いました。
- ・普段、家族で過ごすことが多く、今日参加するかどうか少し悩みました。でも、中学生のお姉さんたちがとても優しく、丁寧に扱ってくれて、息子もとてもうれしいようでした。ずっと「かわいい」と言って抱っこしてくれたお姉さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

命の奇跡にふれた生徒たち

宮本児童ホーム職員

生徒の感想からは、今、自分がここにいることがとてつもない奇跡なのだということを、しっかりと受け止めてくれた様子が伝わってきました。赤ちゃんという存在のおかげで、自分の「命」と、より深く向き合うことができたのかもしれない。

奇跡から15年ほどの生徒たちは、これからも1日1日、未来に向かっていくことでしょう。その道のりのどこかで、今回感じたことを思い出してくれたらうれしいです。

命について考える大切な機会

宮本中学校 第3学年主任 宮山 祐子

「今の自分がいるのはすごいことだと思った。家族や友達と出会えたことを大切にしたい。」
「今僕がここにいるのは親が育ててくれたからだし、好きなことができるのも親のおかげだと改めて思った。この気持ちを忘れないようにしたい。」講演会を聴いて生徒がこんなふうにしたことを知り、あたたかい気持ちになりました。

その後の「赤ちゃん講座」「赤ちゃんふれあいタイム」で活動する生徒たちの表情を見たり話をしたりする中で、学校の授業では経験することができない大切なことをたくさん学んでいることを実感し、本当にうれしく思いました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

海神中学校

講話 大切な命

- 1) 実施日 平成29年6月7日(水)
参加者数 3年生 261名(8クラス)
講師 佐藤美保子助産師

2) 当日の様子



- ① 助産師が話す、お腹の中にいる赤ちゃんの様子や赤ちゃんが生まれてくるまでの様子を、生徒たちはじっとりと聴いていました。
- ② 生徒に配られた黒い紙の中には、小さな穴がひとつ。それが命の始まりの大きさだと知ると、生徒からは驚きの声が上がりました。
- ③ 助産師が持ってきた、胎児の大きさの人形や胎盤のモデルをさわることもできました。

3) 生徒の感想

- ・人間の赤ちゃんってすごいなと思いました。誰にも教わっていないのに、生まれるまでの通り方を知っていて、生まれてからは産声をあげて羊水を肺から出す。赤ちゃんが泣くことにこんなに大事な意味があるなんて知りませんでした。
- ・たくさんの偶然からここまで命を繋いでくれた、何百年前の先祖たちに感謝をしなければならなかったと思いました。自分が生まれるときにも、色々な場面でたくさんの人が協力してくれたと思うと、なんだか不思議です。
- ・産声は良い知らせの泣き声で、苦労した分がその声に詰まっているのかなと思いました。講話の前と後では「大切な命」という言葉に対しての考え方が大きく変わったように思います。

4) 参観された生徒の保護者の感想

- ・家庭では話しにくい、でも知っておかなくてはいけないことも話してくれてありがたかったです。「みんなのおへそはお母さんとつながっていた証」という言葉は、自分も赤ちゃんだったのだ、育ててもらったのだと、生徒が実感できるものだったと思います。

赤ちゃん講座

1) 実施日 平成 29 年 6 月 27 日(火)、7 月 4 日(火)

参加者数 3 年生 259 人(8 クラス)

講師 岩本友恵助産師、佐藤美保子助産師

協力団体 海神地区社会福祉協議会

2) 当日の様子

①



②



③



① 抱っこをするのは初めての生徒も多くいました。地域の方にサポートしてもらいながら、赤ちゃん人形を丁寧に抱え、お世話しました。

② 妊婦体験ジャケットを着けて横になってみます。「この状態で寝るのは大変」と驚く生徒。

③ 紙オムツが吸水する様子を見ってみました。オムツに水が染み込んだときの重さを感じ、オムツ替えを小まめに行う大切さも学べたようです。

3) 生徒の感想

- 赤ちゃんの頭に気をつけて実習しました。隣で教えてくれた方に上手と言われて、とてもうれしかったです。自分もこのように大切に育てられたのかと思いました。
- 赤ちゃん人形にふれることで、命の重み、世話の大変さや大切さ、そして何より赤ちゃんに対する愛着と愛しさがこみ上げてきました。ふれあえばふれあうほどに「守りたい」と思える体験でした。
- 妊婦体験ジャケットは思ったよりも重く感じました。実際には7kgはそこまで重くないのかもしれないけれど、生きている感じや大切にしないといけない感じがして、すごく重く感じました。
- 今、自分は反抗期なので申し訳ないと思いました。苦労してここまで育ててもらったことがわかったので、親への感謝は必要なことだと思いました。ありがとう母さん。

4) 地区社協ボランティアの感想

- 汗をかきながら緊張していた生徒、笑顔で赤ちゃん人形に語りかけていた生徒、一つひとつ丁寧な、真剣なまなざしの生徒たちを見て、とても頼もしく、ほほえましく感じました。

新生児訪問

1) 実施日 平成29年8月1日(火)、8日(火)、22日(火)

場 所 山口病院

参加者数 生徒12名、乳児親子7組、教員3名

協力団体 医療法人成和会 山口病院

2) 当日の様子



① 数日前に生まれたばかりの赤ちゃんとお母さんにご協力いただき、お話を聞かせていただきました。生徒はとても真剣なまなざしです。

② 看護師さんにサポートしてもらい、抱っこしました。人形とは違うあたたかさ、やわらかさに生徒は緊張しつつも、自然に笑顔があふれます。

③ 男子生徒が赤ちゃんを抱っこする姿は、将来の良いいお父さんの姿を想像させてくれます。

3) 生徒の感想

- ・最初の新生児室で、生まれて数時間の赤ちゃんを見て、小さな命に感動しました。
- ・赤ちゃんを抱っこさせていただいて、あたたかくて、思ったよりほんの少し重くて、私の腕の中で安心して目をシパシパさせているのを見ると、命の尊さをすごく感じました。
- ・数日前まで大変な思いをたくさんしただろうお母さんたちが、ものすごく幸せそうに笑ってお話していたのを見て、子どもを産む喜びを感じることができました。
- ・お母さん方へ旦那さんにやってほしいことを聞くと「自分で察して考えて行動してほしい」とのことでした。何をやればいいのか決まっていると思っていた、僕自身の浅はかさに気がつきました。

4) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・挨拶や質問もしっかりと考えて訪問してくれて、楽しみに来てくれたのかなとうれしく思います。自分の子どもも、大きくなったら中学校でこんな体験ができるといいなと思いました。
- ・中学生の頃からしっかりとした予備知識を学び、いざ自分のときに実践できるのは有意義だと感じました。自主参加の活動にも関わらず、男子生徒も参加していて、きっと将来良い父親になるのではないかと思います。

赤ちゃんふれあいタイム

1) 実施日 平成 29 年 9 月 22 日(金)

場 所 海神児童ホーム

参加者数 生徒 24 名、乳幼児親子 15 組、教員 1 名

協力団体 海神地区社会福祉協議会

2) 当日の様子



- ① 「はじめまして、こんにちは」赤ちゃんとお目ざめすると、生徒から笑顔がどんどんあふれます。最初こそ緊張気味の姿も見られましたが、始まりからとても和やかな雰囲気でした。
- ② お母さん方に「この子はこのおもちゃが好きなのよ」と教えてもらい、だんだんと一緒に遊ぶことができるようになっていきました。「ちょうだい」「はいどうぞ」のやりとりを楽しんでいました。
- ③ 仲良くなったらどんどん一緒に遊ぶことができました。お姉さんに抱っこされて楽しそう！抱っこした生徒もとてもうれしそう！お互いの笑顔が会場にあふれていました。
- ④ 最後は音楽に合わせて、生徒のひざの上に赤ちゃんが乗る形で遊ぶこともできました。赤ちゃんたちもお姉さんのひざの上でリラックスした姿を見せてくれました。

3) 生徒の感想

- ・ 今日初めて本物の赤ちゃんとお目ざめ、抱っこできて、怖い気持ちもあったけれど、とてもかわいかったです。お母さんが抱っこするとすぐに泣き止むし、落ち着くから本当にお母さんってすごいなと思いました。

- ・実際ふれあってみると、泣いてしまったときのあやし方など、ただ見ているのとは違って大変でした。でも、顔を近づけて、立って抱っこをして、泣き止んで笑ってくれたときはうれしかったです。落ち着いた様子で楽しそうにお母さんに抱かれている赤ちゃんを見ていると、いつか、あんなお母さんになりたいなと思いました。
- ・赤ちゃんが一生懸命ハイハイしようとしている姿や、泣いている姿、一つひとつの動きや表情がとてもかわいくて、気づいたら私も笑顔になっていました。
- ・お母さん方から、こうしたら泣き止むよ、こうした方が落ち着くよ、といろいろアドバイスをいただき、さすがお母さんだな、と思うと共に、赤ちゃんとのふれあいがもっと楽しくなりました。ずっと笑顔でいられた1時間でした。
- ・授業では人形を使って抱っこしたけれど、本物の赤ちゃんを抱いてみると、ずっしりとしてあたたかくて、命の大切さを感じることができました。子育ては大変だけど、大事な大事な赤ちゃんは、ものすごい宝物なのだろうなと感じました。

4) 地区社協ボランティアの感想

- ・生徒たちの笑顔が素敵で、優しい対応で気持ち良かったです。お母さん方も積極的にオムツ交換など一緒にさせてくれていて、素晴らしいひとときを過ごすことができました。

5) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・思っていた以上に中学生が優しく、純粋で、赤ちゃんをかわいいと思い接してくれたので感動しました。ご両親が大切に育てられたのだろうな、自分も頑張ろうと思いました。
- ・普段、パパやママ友以外の人とふれあう機会がないので、とても良い経験になりました。中学生に抱っこされて、子どもも刺激を受けたと思います。最初は抱っこされて泣いたけれど最後は泣かなくなっていたので驚きました。
- ・中学生のみなさんが命の大切さを学んで、これから大きく成長して、また自分の子どもも同じ経験をしてくれるといいなあと思いました。

生徒の笑顔、赤ちゃんの笑顔

宮本児童ホーム職員

海神中学校の生徒たちは、とても素直に「命」や「赤ちゃん」と向き合ってくれました。生徒からあふれた笑顔と、ふれあった赤ちゃんやお母さん方からこぼれた笑顔が重なった瞬間に出会えたとき、この事業を担当できたことをありがたく感じます。この事業の思い出が、生徒たちがいずれ大人になったときに、心の片隅から光を灯してくれますように。

「中学生と赤ちゃんふれあい事業」を終えて

海神中学校 家庭科担当 吉川 莉沙

「赤ちゃん講座」では、どの生徒も真剣に助産師さんのお話を聞き、恐る恐る抱っこをしたりとても丁寧にオムツや着替えをさせていました。その中でも男子生徒が積極的に抱っこをして楽しそうにしているのが印象的でした。普段の授業では、見ることもできない生徒の姿を見ることができてうれしく思います。

「新生児訪問」などでは、子どもに対しての親の愛情や命の重さを感じることができました。赤ちゃんとのふれあいだけでなく「自分の命」と向き合うきっかけとなる場を設けてくださった児童ホームの職員の方々を始め、この事業に協力してくださった皆様に感謝いたします。

葛飾中学校

講話 大切な命

- 1) 実施日 平成 29 年 6 月 2 日 (金)
参加者数 3 年生 365 名 (10 クラス)
講 師 佐藤美保子 助産師

2) 当日の様子



- ① 陣痛の痛みを男子生徒が体験しました。前屈をしたときに筋が伸びる痛みに近いと知りました。
- ② 黒い穴の空いた紙を光にかざして受精卵の大きさを確認しました。小さい命の始まりに「おおっ」と生徒たちは声を上げていました。
- ③ お母さんになった先生の話を聞きました。身近な人からの子育ての話を生徒たちは真剣に聞いていました。

3) 生徒の感想

- ・今の私たちも成長期ですが、それ以上に成長していく赤ちゃんがかっこよく思えます。一つの命を授かる大切さ、赤ちゃんを育てる大変さを改めて感じる事ができて良かったです。
- ・ご先祖様が一代でも欠けているとその代より後の人は生まれていなかったということを考えると、もっと自分が生きていることや産んでくれたお母さん、お父さん、おばあちゃんに感謝して生活していきたい。
- ・お母さんは、赤ちゃんが生まれて自分の時間がなくなってしまうけど、赤ちゃんは見ていだけで癒されるし、自分の子どもだったらもっとかわいく見えるから時間がなくても赤ちゃんのために頑張れるのかなと思いました。

4) 参観された生徒の保護者の感想

- ・なかなか家庭ではできない話も詳しく子どもたちにしていただき良かったです。自分の命を大切に思ってくれればうれしいです。

赤ちゃん講座

1) 実施日 平成29年6月20日(火)、23日(金)、7月11日(火)

参加者数 3年生 365名(10クラス)

講師 佐藤美保子助産師

協力団体 葛飾中学校保護者ボランティア

2) 当日の様子



- ① 新生児の特徴や着替え、オムツ替えの手順を学びます。目の前の赤ちゃん人形をじっと見つめ、講師の話を真剣に聞いていました。
- ② 赤ちゃん人形は、生まれたばかりの赤ちゃんと同じで首がぐらぐらしています。生徒は頭の後ろに腕を回して丁寧に抱っこしていました。
- ③ 授業も終わりになると抱っこもスムーズにできるようになりました。将来のパパたちも優しく赤ちゃん人形を抱いていました。

3) 生徒の感想

- ・私はいとこが小さいのでよく抱っこしたりしていました。少し怖かったり、どう抱っこするのが一番なのかわからなかったですが、今日の講座で不安が少し取り除けたと思います。
- ・赤ちゃんの人形を使った体験では赤ちゃんの頭に気をつけて抱っこしたり、着替えやオムツ替えも丁寧に行うことができました。手の指などの大きさや、さわった時の感覚は初めてで改めて大切にしなければいけないなと思いました。
- ・お母さんが全員、この重さとしんどさを何か月も耐えていると思うと母の強さを感じました。

4) 保護者ボランティアの感想

- ・実際の子育てのとき、役立つといいなと心から思いながら、着替えやおむつ替えのサポートアドバイスをしていました。自分も同じように大切に育てられてきたことを感じ、自身の存在も大切にできる人でいてほしいとも思いました。

赤ちゃんふれあいタイム

1) 実施日 平成29年7月27日(木)

場 所 西船児童ホーム

参加者数 生徒13名、乳幼児親子17組、教員1名

2) 当日の様子



- ① 生徒がお母さんに、子育ての楽しさや大変さを聞いています。いろいろな話を聞くことができ、将来を考えることができたようです。
- ② 生徒は最初緊張していましたが、シフォン布(うすくてやわらかい布)を使った遊びで赤ちゃんとの距離を縮めていきました。
- ③ お母さんに手伝ってもらいながらオムツ替えの実習をしました。学校で習ったことを思い出しながら行いましたが、なかなか難しいです。
- ④ お姉さんの腕の中は居心地が良いのか赤ちゃんもすやすや眠りにつきました。赤ちゃんのやわらかさやぬくもりを感じ、癒されるひとときでした。

3) 生徒の感想

- ・自分がふれあってもなかなか赤ちゃんの心を開くことができず、常に一緒にいて赤ちゃんの心を通わせている母の存在のすごさ、そして育児の大変さを学ぶことができました。この体験を活かし、将来立派なイクメンになりたいです。

- ・何回か抱っこさせてもらいましたがとてもあたたかくて何だか幸せな気分になりました。
- ・お母さんが「赤ちゃんの笑顔を見ると自分も元気になる」と言っていたけれど、本当にその通りだと思いました。
- ・最初は赤ちゃんはどうやってふれあえば良いかわからなくて、不安だらけだったけれど赤ちゃんが笑ってくれた時に不安がなくなり、何をやったら笑ってくれるか、喜んでくれるかを考えながらふれあっていたら、赤ちゃんが笑って喜んでくれたのでうれしかったです。
- ・赤ちゃんのオムツ替えや抱っこなどをして、実際に体験してみると意外と大変だったし、練習の赤ちゃん人形は動かないけれど実際は動くので良い体験でした。
- ・赤ちゃんによって好きなおもちゃが違うので、渡したおもちゃを気に入ってくれたときはうれしかったです。
- ・同じ0歳でもできることや喜んでくれることが全然違い、個性がはっきりしていていろいろな子とふれあうことができたので、たくさん学ぶことができました。
- ・途中で赤ちゃんが泣いてしまったとき、お母さんがあやしてすぐに赤ちゃんが泣きやんだのを見て、お母さんってすごいなと思いました。

4) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・今の中学生とお話することができて良い体験ができました。自分の好きなことや目標をしっかりと言語することができた中学生がとてもたのしかったです。
- ・ふだん子どもと2人きりのことが多いので、子どもにとってもお兄ちゃん、お姉ちゃんとふれあえたことは良かったと思います。
- ・中学生はみんな優しく赤ちゃんに接してくれて、こんな中学生に成長するようにこの子を育てたいと思いました。
- ・中学生とふれあう中で我が子もいずれは彼らのような中学生になる日が来るんだろうなと考え、あっという間に過ぎる忙しい育児の毎日は一瞬も見逃せない貴重な時間なんだと改めて実感しました。
- ・恐る恐る赤ちゃんを抱っこしたりおむつ替えをしたりする中学生を見て、8か月前の私もこんな風だったなとなつかしく思いました。子育ては今でもこれからも大変なことばかりだと思いますが、一瞬一瞬を大事に楽しんでいきたいと思いました。

赤ちゃんといれあう中で

塚田児童ホーム職員

命の誕生と成長の過程を知り、命の繋がりや一つの命の重さを感じる機会になったと思います。これからの自分を育むうえでこの事業のことを思い出してくれたらうれしいです。

「中学生と赤ちゃんふれあい事業」を終えて

葛飾中学校 第3学年教諭 吉村 剛

葛飾中学校は、今年度初めて「中学生と赤ちゃんふれあい事業」を行いました。講話「大切な命」では、自分が両親や周りの人々から愛情を受けて育ったことに気づき、両親への感謝の気持ちを生徒たちは改めて感じる事ができたと思います。生徒は「私も今日来てくれたお母さんのように、幸せに子どもを抱けていることを願いたい」と気持ちも穏やかになっていきました。このような素晴らしい体験の場を設けてくださった児童ホームの職員の皆様や、協力してくださったボランティアの方々に感謝致します。

旭中学校

講話 大切な命

1) 実施日 平成30年1月26日(金)

参加者数 2年生 191名(6クラス)、支援学級 1～3年生 12名

講師 佐藤美保子助産師

2) 当日の様子



① 生徒たちは真剣な面持ちで、命が生まれてくるまでの過程や自分の体の話を聞いていました。

② 講話の休憩時には講師と話したり、赤ちゃん人形を抱っこしたりしていました。助産師の仕事について熱心に質問する生徒もいました。

3) 生徒の感想

- ・私がお母さんのお腹にいたとき、お母さんはとても大変だったんだろうなと思いました。そんな思いに耐えて私のことを産んでくれて、今日まで育ててもらえてとても幸せだと思いました。
- ・自分は宝くじに当たるくらいの少ない確率の中、生まれてきたということを初めて知りました。自分がここにいることがとてもすごいことだと知って、貴重な自分の命や他人の命を気づかえるようになりたいと思いました。
- ・今、自分が幸せに暮らせているのも、周りの人たちのおかげであることを改めて実感しました。お腹を痛めて産んでくれたお母さんや自分を支えてくれた周りの人に感謝し、ちゃんと生きていきたいと思いました。
- ・赤ちゃんの鼓動を聴き、自分が軽く運動したときのような速さでびっくりしました。小さい体で頑張っていることに、生きようとする力のすごさを感じました。
- ・他の人と自分の成長の速度の違いを不安に思うことがありましたが、今回の話を聞いて成長は人それぞれで良いんだと安心することができました。
- ・私は将来、助産師になりたいと考えているので、仕事の内容について知ることができとても良かったです。体のことで悩んでいることもあったので、相談を聞いてもらっているようでとても心強く感じました。
- ・講話を聴き、自分の体への理解が大切であるとわかりました。これからは今自分の体に起きている変化が、今後の大切な命のために繋がっていることを理解しながら過ごしたいです。

赤ちゃん講座

1) 実施日 平成29年7月13日(木)、14日(金)

参加者数 3年生210名(6クラス)

講師 岩本友恵助産師、佐藤美保子助産師

協力団体 旭中学校保護者ボランティア

2) 当日の様子



① 最初はオムツ替えや抱っこにとまどっていた生徒たちも、終盤には自分から進んで抱っこしていました。

② 紙オムツに500ccの水を入れました。オムツの吸水力に生徒たちは驚いていました。

③ 赤ちゃんとお母さんが来てくれました。本物の赤ちゃんのかわいさ、やわらかさやあたたかさを実感することができ、笑顔があふれていました。

3) 生徒の感想

- ・今まで妊婦の人や子育てをしている人の気持ちはわからなかったけど、気持ちが少しわかった気がしました。
- ・5か月の弟がいるのですが、自分の知らないことを教えてもらい今後の生活に生かしていきたいと思います。
- ・この講座を通して少しでもお母さんたちの大変さを体験することができました。電車で席を譲るなど、できることを見つけてやっていきたいと思います。

4) 保護者ボランティアの感想

- ・この年頃に、このような講座を経験できる子どもをうらやましく思いました。子どもたちが赤ちゃん人形を大事に扱っている姿に、母性や父性を感じました。
- ・赤ちゃん人形を見る生徒たちのキラキラした顔つきに自然とこちらも笑顔になりました。親としても貴重な体験ができて、大変うれしかったです。

赤ちゃんふれあいタイム

1) 実施日 平成 29 年 9 月 16 日(土)

場 所 塚田児童ホーム

参加者数 生徒 18 名、乳幼児親子 12 組、教員 4 名

協力団体 塚田地区社会福祉協議会

2) 当日の様子



- ① ボールプールで遊びました。初めは生徒も幼児もお互いに緊張していましたが、すぐに打ち解け距離を縮めていきました。
- ② 抱っこさせてもらいながら、お母さんから育児の話を聞きました。子育ての大変さや楽しさなど、いろいろなことを教えてもらいました。
- ③ シフォン布(うすくてやわらかい布)を使って遊びました。赤ちゃんは生徒に渡されたひらひらした布の動きに興味津々でした。
- ④ お父さんがオムツ替える姿を見学させてもらいました。てきぱきとしたお父さんの動きがとても勉強になりました。

3) 生徒の感想

- ・双子のお母さんのお話を聞くことができました。また、今の自分のことをお母さんに尋ねられました。双子は生まれる際のリスクが大きいと聞き、産んでくれた母にありがとうと言いたいです。

- ・久しぶりにオムツ替えをさせてもらい、いい経験になりました。手をぎゅっと握ってくれたり、「ばいばい」と言ったら手を振ってくれたりと本当にどの子もかわいかったです。
- ・どの赤ちゃんもかわいくて癒されました。今日赤ちゃんに元気をもらい、赤ちゃんにはこんな力があるのだと改めて感じました。
- ・赤ちゃんを最後までずっと抱っこさせてもらいました。どんなときも赤ちゃんは本当にかわいくて、腕が痛くなっているのにも気づかないくらい癒されました。
- ・普段あまりこういった機会が無く、とても癒されました。自分が小さかったころのことを思い出していく中で、改めてここまで育ててくれた両親に感謝することができました。

4) 地区社協ボランティアの感想

- ・生徒たちの素直な心を通じて、ご両親は安心してお子さまを預けることができたと思います。お母さまたちも進んで生徒たちに話しかけられていて、とても良い交流ができたと思います。

5) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・中学生が積極的にあやしてくれて娘も大喜びでした。またその喜ぶ姿に中学生がうれしそうにするのを見て、参加して良かったと思いました。娘をたくさんかわいいと言ってもらえて改めて娘のかわいさや大切さ、一緒にいられることがどんなに幸せかを実感しました。
- ・普段関わることのない中学生とふれあうことができ楽しかったです。机に向かう勉強も大切ですが、実際に赤ちゃんといふれあう機会はもっと大切だと思いました。
- ・優しいお兄さん、お姉さんと遊べて子どもたちも楽しかったようです。息子たちが中学生になったときにやっていたら参加させたいです。

赤ちゃんといふれあって

塚田児童ホーム職員

自分自身がこの事業に初めて参加し、赤ちゃんのかわいさや育児の大変さを生徒と共に学ぶことができました。生徒たちが赤ちゃんや保護者の方と自分の姿を重ね、過去の両親の想いや自分の将来の姿を感じてくれたらうれしいです。

よき出会いに感謝

旭中学校 第3学年教諭 高橋 拓也

今年も「命」と出会う講座を開設していただきました。

「講話 大切な命」では生命が誕生する神秘と小さな鼓動の力強さを通して自らの命、他者の命の大切さを学ぶことができました。「赤ちゃん講座」では母性の強さや性差を超えた命への労り、社会全体で命を育む大切さを学び、両親・家族への感謝を再確認しました。

生徒たちは家族への感謝の気持ちや日常目にする子育ての場面に対して優しい気持ちを抱く自分に出会うことができました。「赤ちゃんふれあいタイム」にも多くの生徒が参加し、乳幼児とのふれあいだけでなく保護者のみなさまとの会話を通じて命を育む愛情の深さに感動しました。

こうした貴重な体験を支えてくださった方々に深く感謝いたします。

高根中学校

講話 大切な命

1) 実施日 平成29年4月14日(金)

参加者数 3年生 99人(3クラス)

講師 伊藤志保助産師

2) 当日の様子



① 命の始まりについて、助産師の講話を聴きました。

② 実際に心臓の動く速さを、聴診器を当てて比べてみました。

③ 赤ちゃんはとても狭いところを進んでいきます。赤ちゃんだって工夫して出てくるのです。

3) 生徒の感想

- 赤ちゃんができる確率と生まれる確率は絶対ではなく、ごく僅かだということがわかった。私たちもそのごく僅かな確率の中で生まれてきたので、元気に産んでくれたお母さんに感謝したいです。
- 苦しみながらも私を産んでくれたお母さんの気持ちが、今日の授業でわかった気がしました。
- お母さんが苦勞して産んでくれたのに、簡単に「死にたい」と言ったり、命を亡くしてはいけないなと改めて感じました。
- 赤ちゃんの心臓の音と私たちの心臓の音は、テンポが違ってびっくりしたし、お腹の中でも頑張っているんだなと感じました。
- 初期の赤ちゃんの画像を見て、今の自分の姿とは全然違い、この赤ちゃんが成長して自分になったのかと思うと驚きでした。

赤ちゃん講座

1) 実施日 平成29年5月26日(金)

参加者数 3年生98人(3クラス)

講師 伊藤志保助産師

協力団体 高芝地区社会福祉協議会、高根中学校保護者ボランティア

2) 当日の様子



① 人形を使って、着替えやオムツ替えを学びます。

② 妊婦体験ジャケットを着て、横になってみました。重くて苦しそうな生徒が多かったです。

③ オムツ実験です。大量の水を垂らしても、濡れないオムツに驚いていました。

3) 生徒の感想

- ・赤ちゃんの抱っこやオムツ替えが、こんなに難しいとは思わなかった。
- ・オムツ替えが大変でした。特に左右を合わせたり、ギャザーを出したりと、あんなに神経を使うものだとは思わなかった。
- ・妊婦体験では、普段できている簡単な動作ができなくなりました。寝てみて、起き上がろうとしたら起き上がれませんでした。
- ・オムツ実験では、ペットボトルくらいの水は余裕で吸収して、とても驚きました。

4) 保護者ボランティアの感想

- ・いとこの子どもなどで体験していた生徒は、いろんな話をしてくれたので、こちらも自分のときの話をしたりと、楽しく進められました。ぜひ女の子には赤ちゃんを育ててほしいですし、男の子もイクメンが増えるといいなと思います。

赤ちゃんふれあいタイム

1) 実施日 平成 29 年 6 月 28 日(水)、30 日(金)、7 月 6 日(木)

場 所 高根台児童ホーム、新高根児童ホーム

参加者数 生徒 98 名、乳幼児親子 55 組、教員 6 名

協力団体 高根台地区社会福祉協議会、高芝地区社会福祉協議会

2) 当日の様子



- ① 生徒の緊張が伝わったのか、赤ちゃんに泣かれてしまいました。
- ② 恐る恐る、オムツを替え、時間がかかると、赤ちゃんも機嫌悪くなってしまう。
- ③ ミルクをあげる体験もしました。ミルクをあげているとじーっと目が合って、とてもあたたかい気持ちになりました。
- ④ 着替えも大変です。なかなか手が入らなく、四苦八苦していました。

3) 生徒の感想

- ・泣いてしまった子や、どこか行ってしまう子、よく笑う子など、個性豊かな子がたくさんいました。それぞれ個性のある赤ちゃんたちを育てるなんて、お母さんはすごいと改めて思いました。
- ・自分が抱っこしたときには何回か泣かれてしまいましたが、次第に泣かれなくなって、笑ってくれたりもしたので、とてもうれしかったです。

- ・人形とは違い、やわらかくて、ずっしりとして…うまく言えないけど、とても幸せな気分になりました。
- ・お母さんは大変なことも多いと思うけど、自分の子を1番にかわいがっている姿を見て、私も自分の子どもに愛情を注げるお母さんになりたいです。
- ・4か月の赤ちゃんを抱っこさせていただきました。本当に首がグラグラしていて、抱っこするのが怖かったです。
- ・今日は、最初は不安だったけど、ふれあってみて楽しかったし、自分が自然と笑顔になっているのがわかりました。赤ちゃんには不思議な力があるんだなと思いました。
- ・オムツの交換では、人形と違って、すごく動いて大変でした。
- ・授乳を見せてもらいました。そのときにいろいろなお話もできてとても楽しく、充実した時間になりました。

4) 地区社協ボランティアの感想

- ・講義でもなく、人形でもない、実物の赤ちゃんとのふれあう体験に、真剣に向き合う中学生が立派で、ほほえましかったです。
- ・中学生の抱っこの仕方がすごくしっかりしていました。男子もオムツ替えなど普段できないことが経験できて、とても良い事業でした。

5) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・同じくらいの年齢の子や大人と遊ぶことはあっても、中学生とのふれあう機会はなかなかないので、いい経験ができたと思います。
- ・たくさん抱っこしてくれて、オムツも交換してくれました。泣いている大変さも感じてくれているといいなと思います。
- ・人見知りの我が子で慣れるまで時間がかかりましたが、中学生たちは一生懸命遊んでくれました。少しでも心に残る体験になっていれば幸いです。

たくさんの赤ちゃんたちとふれあいました

新高根児童ホーム職員

3年生全員が参加したふれあいタイム。最初はツンツンした態度だった生徒たちも、次第に笑顔になり、とてもあたたかな雰囲気になっていました。赤ちゃんには不思議な力があります。この事業での経験が、将来、素晴らしい糧になれば幸いです。

初めての校外での実施

高根中学校 第3学年主任 津島 みなと

高根中学校では、昨年度まで希望制で行ってきた第3回「赤ちゃんふれあいタイム」をクラス毎に3回、児童ホームで実施しました。初めての校外での実施であったため、授業変更や移動・安全面の問題など今後改善しなければならない点はありましたが、赤ちゃんとのふれあいを通して、どの生徒も普段の学校生活では見られない優しい表情をしていました。そんな生徒たちの様子を見て、オムツ替えや授乳の様子を特別に見せてくださったお母さん方もいました。

多くの生徒に貴重な体験をする機会を設けていただき、本当にありがとうございました。

金杉台中学校

赤ちゃん講座

1) 実施日 平成29年9月6日(水)

参加者数 3年生 33人(1クラス)

講師 岩本友恵助産師

協力団体 高根・金杉地区社会福祉協議会、金杉台中学校保護者ボランティア

2) 当日の様子



① 赤ちゃん人形を使って、着替えやオムツ替えを学びます。みんな真剣な表情です。

② 妊婦体験ジャケットを着て、「こんなに重くて、お母さんって大変だね」と生徒たちは話していました。

③ オムツにおしっこ3回分ほどの水を染み込ませてみました。吸水性に驚く生徒たちです。

3) 生徒の感想

- ・妊婦体験ジャケットを着けてみて、毎日毎日こんなに重い思いをして命を守りながら生活するのは大変だなと思いました。
- ・赤ちゃんを抱っこしたとき「体重が意外と重い」としか思いませんでした。あとで思い返すと「命の重さ」を感じていたのかなと思います。今回の体験をして母親ってすごいんだなと思いました。これからも、もっと感謝していこうと思います。
- ・オムツの実験をしてびっくりしました。すごい吸水力で水を吸い取った後も表面がサラサラでした。でもオムツが重くなるので早く変えてあげないと大変なことも分かりました。
- ・今回育児の大変さを知ることができました。この体験をふまえて、親や兄、そして私の育児に関わった人に感謝したいと思います。

4) 地区社協ボランティアの感想

- ・中学生でこのような体験が出来る事はあまりないことなので、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。私も何十年前を思い出して、懐かしく取り組ませていただきました。
- ・私も初めて妊婦体験ジャケットを着用しました。10年前のことで、忘れていた経験をできてうれしかったです。子どもたちも妊婦体験や赤ちゃん人形にふれていろいろと感じたと思います。助産師さんのお話にあったように、人は必ず誰かに支えられながら育ってきていることを忘れないでほしいと思いました。

赤ちゃんふれあいタイム

1) 実施日 平成29年9月15日(金)

場 所 金杉台児童ホーム

参加者数 生徒34名、乳幼児親子27組、教員3名

2) 当日の様子



- ① 3部屋に分かれて各部屋で自己紹介をした後、わらべうたを歌いました。
- ② シフォン布（うすくてやわらかい布）を使ってみんなでふれあっています。
- ③ 中学生のお姉さんに抱っこされてご機嫌です。
- ④ ミルクをあげる体験もしました。とてもあたたかい気持ちになりました。

3) 生徒の感想

- ・自分も14年前は今日いた赤ちゃんたちのようだったのかなって思うとちょっとだけ不思議な感じだった。どんな子でもそこにいた子どもたちはシフォン布を出しわらべうたを歌うと笑っていて喜んでくれた。
- ・赤ちゃんは自由に考えていることがわからず戸惑いましたが、時々楽しそうににこにこ笑う顔がすごくかわいくて純粋で、自然と私まで笑顔になり赤ちゃんのパワーを感じました。
- ・赤ちゃんと遊んでいるときは「にこにこ笑っていて可愛いな」としか思っていなかったのですが、赤ちゃんが変なものを口に入れてしまわないかとか、高いところから落ちてけがをしないかとか、たくさんのことに気がいって、目が離せませんでした。「お母さんたちはこれを毎日やっているんだ」と思うと、私も両親へ感謝です。

4) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・中学生の男の子、とても素直でした。緊張していたと思いますが、わらべうたにあわせてシフォン布での遊びも赤ちゃんの様子を見ながら一生懸命やってくれて、こちらも楽しかったです。
- ・少しずつ赤ちゃんを通じて会話をしていく中で距離を縮められたように思いました。赤ちゃんと積極的に遊んだり、抱っこしたりしてくれたので、こちらも安心して楽しく過ごすことができました。参加したことでとても癒され、また一つ育児が楽しく思えました。
- ・当たり前のように毎日行っている育児の一つひとつも、説明している中で気づきになることもあり、こちらも新鮮な気持ちになりました。

ふれあい事業を終えて

新高根児童ホーム職員

生徒たちが積極的に赤ちゃんといれあうことで徐々に赤ちゃんも笑顔になり、楽しんでいました。また、生徒たちの真剣な眼差しや行動をみて地区社協ボランティアの方や赤ちゃんの保護者も感心していました。

この事業を進めていくうちに生徒たちは、親への感謝の気持ちや子育ての大変さを実感したことでしょう。この経験がお母さんお父さんになったときに役立ち、そして、未来へ繋がっていくとうれしいなと思います。

「赤ちゃんふれあい事業」を終えて

金杉台中学校 第3学年主任 高橋 憲史

「赤ちゃん講座」では、身長50cm・体重約3000gの人形の赤ちゃんを相手に抱っこや着替え、オムツ替えの練習をしました。人形相手とはいえ、リアルな人形に、手が震える生徒もいたことが印象的です。「赤ちゃんふれあいタイム」では、0歳～3歳くらいの赤ちゃんと実際にふれあいます。感情があり、表情があります。15歳なりにそれぞれの心情を読み取り、一緒に遊んでくれるよう努力しながら接します。その過程で保護者のあたたかい視線に気づく生徒がいます。「生命」の広がり・強さ・温度に直にふれ、これまでの自分史を振り返り、保護者へ感謝の気持ちを再認識し、自分の心に勇気の火を灯します。この事業を通じて、生徒の心では、こんな営みが行われていたように感じます。

本校生徒の成長に大変貴重な機会を与えてくださった関係各位に感謝を申し上げます。

二宮中学校

講話 大切な命

1) 実施日 平成29年6月14日(水)

参加者数 3年生 229名(7クラス)

講師 伊藤志保助産師

2) 当日の様子



- ① お腹の中で赤ちゃんが育っていく過程を、映像を見ながら説明を受けました。徐々に人の形に変化していく様子に、生徒たちの目線は釘づけになっていました。
- ② 休憩時間に赤ちゃん人形を抱っこすると、やわらかな感触に思わず笑顔になる生徒でした。
- ③ お母さんのお腹から生まれてくる様子を、胎児の人形を使って教えてもらいました。体を丸めて生まれてくる姿に「赤ちゃんも頑張っているんだ」と多くの生徒が感じたようです。

3) 生徒の感想

- ・思春期なので、色々なことで心配になったり、イライラすることが多くなるかもしれないけれど、自分だけではないということ、また恥ずかしがらずに相談するべきだと思いました。
- ・今日の講話を聞いて、出産がどれだけすごいことなのか、とてもわかりました。私は、今とても健康だけど、それもすごいことなんだと感じました。
- ・産声は尊い第一声だと思いました。
- ・産む人も頑張っているけど、赤ちゃんも頑張っているということを知りました。

4) 参観された生徒の保護者の感想

- ・大切な命を育てる覚悟、妊娠・出産の流れ、リスクの話は、とてもわかりやすかったです。避妊のことなどはとても大切で、子どもにも良かったと思います。

赤ちゃん講座

1) 実施日 平成 29 年 6 月 29 日(木)、30 日(金)

参加者数 3 年生 229 人(7 クラス)

講 師 伊藤志保助産師

協力団体 二宮中学校保護者ボランティア

2) 当日の様子



- ① まだ首が座っていない赤ちゃんの抱っこの仕方を学びました。そっと首の下に手を入れ、優しく抱き上げていきます。
- ② 赤ちゃん人形を抱っこすると、重みややわらかさを感じました。赤ちゃんの愛らしい姿に、生徒からは思わず笑顔がこぼれました。
- ③ 妊婦体験では保護者ボランティアから、妊娠中のエピソード等を聞かせてもらいました。多くの生徒が「今後、妊婦さんへ配慮をしていきたい」と感想に書いていました。

3) 生徒の感想

- ・今日は人形だったけど、実際はたくさん泣いたり、動いたりして、もっと大変なんだろうなと思いました。だから今まで母親に心配かけていたと思うので、これからは親孝行をしたいなと思いました。
- ・妊婦体験をしてみて、お母さんの大変さがよくわかりました。私の世話を毎日していたと考え、感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・妊婦体験は絶対に今後体験することがないので、女性がどのような思いをするのか知れて良かったです。

4) 保護者ボランティアの感想

- ・赤ちゃんを抱っこしたときの子どもたちの表情が優しくて、はにかんだ笑顔が印象的でした。
- ・思春期の難しい時期にもかかわらず、赤ちゃん人形にふれるときの優しい笑顔や、声かけが自然と出てくる様子が見受けられ、とても楽しい経験ができました。

赤ちゃんふれあいタイム

1) 実施日 平成29年10月7日(土)

場 所 薬円台児童ホーム

参加者数 生徒13名、乳幼児親子16組、教員6名

2) 当日の様子



- ① 赤ちゃんを抱っこさせてもらい、ミルクの匂い・温もり・やわらかさを感じることができ、受験のプレッシャーも吹き飛ばすほど、穏やかな気持ちになりました。
- ② 「はい、どうぞ」と生徒からの優しい声かけに、赤ちゃんも自然とおもちゃに手を伸ばしていました。
- ③ ミルクでの授乳を経験しながら、お母さんから育児中のエピソードをたくさん聞くことができました。
- ④ オムツの前後やテープの位置など、お母さんから丁寧に教えてもらい、慎重にオムツ替えを行いました。

3) 生徒の感想

- ・お母さんはどんなときでも赤ちゃんがやりたいことを理解できていてすごいと思いました。
- ・赤ちゃん講座では人形の赤ちゃんだったので泣いちゃうことや動くことはなかったけど、今回はとっても元気な赤ちゃんでとても楽しかったです。
- ・時々、見せてくれる笑顔がとてもかわいくて、こっちまで笑顔になりました。

- ・子育ての大変なことや、妊娠中に気をつけなければいけないことなどのいろいろなお話を聞けたので、自分がお母さんになったときには、そのお母さんが教えてくれたアドバイスを活かして頑張りたいと思いました。

4) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・積極的に質問をしてきてくれ、赤ちゃんに話しかける姿はとても好感がもてました。こういう機会がもっとたくさんあるといいなと思いました。
- ・とても緊張しましたが、生徒たちが一生懸命子どもとふれあっているのを見て、癒されました。これからもこの事業を続けていってほしいと思います。
- ・今後、生徒たちが出産して子育てするときに思い出してくれて、子どもを大事に思ってくれることを願っています。
- ・赤ちゃんといふれあうことが好きという若い方がいるということがうれしく、この事業が長く続いてほしいと思いました。
- ・生徒さんが皆優しい顔で一生懸命お世話をしようとしてくれていてうれしかったです。
- ・娘も家では見せない行動や、表情を出してくれました。私にとっても新たな発見があり、充実した時間となりました。

3年生のみなさんへ

薬円台児童ホーム職員

部活や受験で多忙な日々を過ごす3年生にとって、この事業は命の尊さについて考えるきっかけになったのではないのでしょうか？

この時期だからこそ不安や焦燥感にかられることもあると思いますが、この経験を思い出し、自分自身や家族・友だちを大切にしながら、成長していったほしいと思います。

体験、気づき、こころの成長

二宮中学校 第3学年教諭 有賀 勇亮

「赤ちゃんふれあいタイム」では、実際の赤ちゃんと接する体験をしました。生徒と赤ちゃんが対面し、緊張していた生徒たちの表情もやわらかくなりました。生徒たちはお母さん方からいろいろな話を聞き、赤ちゃんについての様々なことを直接学ぶことができました。赤ちゃんと一緒に楽しく遊び、中には実際にオムツを交換する生徒もあり、大変貴重で充実した時間を過ごすことができました。

これらの体験を終え、生徒たちの感想や表情から「赤ちゃんふれあい事業」を通してこころの成長が感じられました。自分がこの世界に誕生したこと、親に愛情をたくさん注いでもらいここまで成長できたこと、友人との出会いを通して自分は今日まで誰かに支えられて生きてきたことを実感できる体験になりました。

この事業は薬円台児童ホームの職員の方々、助産師の伊藤先生、保護者の方のボランティアなど様々な人のあたたかいご協力のもと、行うことができました。このような機会を設けていただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。

芝山中学校

講話 大切な命

1) 実施日 平成29年9月12日(火)

参加者数 3年生 99人(3クラス)

講師 伊藤志保助産師

2) 当日の様子



① 助産師が、赤ちゃんがどのように生まれてくるのか、映像とモデル人形で説明してくれました。

② 生徒の心音を聴いてみました。緊張のためか少し早めでしたが、赤ちゃんとの速さの違いに驚いていました。

③ 休憩時間に新生児と同じ大きさの赤ちゃん人形を抱っこしてみました。自然と表情が和らぐ生徒たちです。

3) 生徒の感想

- 今まで、出産するときは、お母さんだけが大変だと思っていたけど、赤ちゃんも1分くらい酸欠になると知り、自分も大変な思いをして生まれてきたんだなと思いました。
- 何億分の1という確率で生まれてきたということは、自分にも生きる意味があるのだと思います。自分の命を自ら絶つことは絶対にいけないことだと思いました。
- 講話を聞いて、真っ先に、両親にお礼が言いたくなりました。それと同時に、自分が生まれてきたときのことを知りたくなりました。命を大切に生きていきたいです。
- 今、心と体が成長して不安なことが色々あるけれど、ちゃんと大人になって、親が産んでよかったと喜んでくれるように生きていければいいなと思います。

赤ちゃん講座

1) 実施日 平成 29 年 9 月 26 日(火)

参加者数 3 年生 98 人(3 クラス)

講 師 伊藤志保助産師

協力団体 高芝地区社会福祉協議会、芝山中学校保護者ボランティア

2) 当日の様子



① 助産師がお着替えをやって見せると、興味津々に見つめる生徒たち。「声を掛けてあげてね」とアドバイスをもらうと、照れ笑いしていました。

② 抱っこからそっと布団に寝かせています。「大丈夫かな」と心配しながら、ゆっくり慎重に降ろします。

③ 妊婦体験ジャケットを着着。「こんなに重いのか」と驚いていました。

3) 生徒の感想

- ・赤ちゃんの抱き方が、簡単に見えて意外と難しく、時間がかかってしまいました。自分が親になるまでに、練習しようと思います。
- ・妊婦体験では体がとても重くて、「外出なんてできない!」とってしまうほどでした。私は双子なので、2倍の重さと思うとお母さんに感謝しきれないと思いました。
- ・今までは、赤ちゃんのお世話は女の人の役目だと思ってしまっていたのですが、講座を通して「赤ちゃんは家族で育てなければいけない」という気持ちになりました。将来親になるのが楽しみになりました。

4) 地区社協ボランティアの感想

- ・笑い声のする楽しい授業でした。思いやりのある成人が増えると期待したいです。
- ・生徒と楽しく参加することができました。照れながらも赤ちゃんを抱くと優しい顔になる男子生徒が印象的でした。子どもたちにとって、とても良い体験になったと思います。

赤ちゃんふれあいタイム

1) 実施日 平成 29 年 10 月 3 日(火)

場 所 芝山西小学校 体育館

参加者数 生徒 99 名、乳幼児親子 53 組、教員 5 名

協力団体 高芝地区社会福祉協議会

2) 当日の様子



- ① 生徒たちに囲まれ、ハイハイを披露する赤ちゃん。そのかわいさに思わず手を叩く男子生徒。赤ちゃんがちらっと顔を上げると笑顔を交しあっていました。参加生徒が100名近い大規模なふれあいタイムとなりましたが、一人ひとりが関わることを楽しみ、赤ちゃんとの笑顔がたくさん見られました。
- ② 少しずつ心の距離が縮まり、生徒に心地よく抱っこされる赤ちゃん。「お散歩しようね」としばらく抱っこを楽しんでいました。
- ③ 泣いている赤ちゃんを一生懸命遊びに誘ってみます。網状のボールからシフォン布（うすくてやわらかい布）を引っ張り出して見せると、泣きながらも両手を伸ばしてくれました。
- ④ 赤ちゃんのお母さんに教えてもらいながら授乳体験をしています。じっと見つめられ、照れながらも笑顔で答えながら、ゆったりと授乳していました。

3) 生徒の感想

- ・ 赤ちゃんに関わるのが普段ないので、ガチガチに緊張してしまいましたが、赤ちゃんに怖い思いをさせてはいけないと思い、終始笑顔で頑張りました。そして自分が笑えば赤ちゃんも笑ってくれることに気がつきました。とっても楽しかったです。

- ・私も双子なので、双子の赤ちゃんといれあってみました。2人とも泣いてしまいお母さんはとても大変そうでしたが、「2人同時に泣くと大変だけど、その分かわいさも2倍ある」とお母さんが話してくれ、涙が出そうになりました。
- ・赤ちゃんを抱っこするとずっしりとした重さがあり、温かい体温もなにもかもがすごかったです。命の重みを感じました。
- ・赤ちゃんは泣いたり笑ったり、感情がすぐ変わって一瞬も目が離せないくらいかわいかったです。

4) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・いれあいタイムが終わるとき、子どもと中学生がさよならするときに「なごり惜しくて泣きそう」と言っていた男の子がいて、たった1時間ではあったがそれほど内容の濃いものだったということを感じました。
- ・中学3年生だと照れくささもあって関わってもらえないだろうな、と思っていましたが、「いいいいいいばあ」やシフォン布（うすくてやわらかい布）であやしてもらいとても楽しい時間が過ごせました。
- ・手作り名札の個性が出ていてとてもかわいかったです。
- ・私自身が生徒とたくさんお話できて楽しかったです。自分の子が中学生になった姿を思い、成長が楽しみになりました。

笑顔あふれるいれあいタイム

新高根児童ホーム職員

今年度、初めて3クラス合同総勢200名を超える大規模ないれあいタイムとなりました。たくさんの地域の親子さんにご参加頂き、生徒と幼児、生徒と幼児のお母さんが、のびのびといれあう、笑顔あふれる、いれあいタイムとなりました。“命を大切に生きようと思った”心揺さぶられる感想がたくさん寄せられました。生徒にとって、大きな意味のある授業になったと感じます。

「心の成長」～中学生と赤ちゃんいれあい事業を終えて～

芝山中学校 第3学年主任 秋原 翔

「講話 大切な命」では、助産師さんから「命」についてお話を伺いました。1つの命が誕生することの大変さや感動を聴き、自分の命や他人の命について改めて考え、また感じているようでした。

「赤ちゃん講座」では、リアルな赤ちゃん人形を使い、抱っこやオムツ替え、肌着に着替えや妊婦体験をさせていただきました。特に学校生活でやんちゃしている男子生徒が話を真剣に聞き、誰よりも意欲的に取り組んでいました。

「赤ちゃんいれあいタイム」では、大勢の赤ちゃんやお母さんに集まっていたき、非常に有意義な時間となりました。穏やかでまるで“お父さん”や“お母さん”のような生徒の姿を見ることができました。

この事業を通じて、生徒たちの大きな“心の成長”を感じることができましたことに、感謝致します。本当にありがとうございました。

七林中学校

講話 大切な命

- 1) 実施日 平成29年6月7日(水)
参加者数 3年生 181名(6クラス)
講師 伊藤志保助産師

2) 当日の様子



- ① 妊婦さんにご協力いただき、本物の胎児の心音を聴かせてもらいました。力強く聴こえてくる心音に感動した生徒たちから、拍手が起こりました。
- ② 休憩時間にお腹を触らせてもらったり、日常生活でのいろいろなエピソードなどを聞かせてもらったりしました。
- ③ 本物そっくりに作られている赤ちゃん人形を抱っこしました。2人がかりで慎重に抱きかかえると自然と笑顔になる生徒たちでした。

3) 生徒の感想

- ・私はちょうど思春期で、心が不安定なときが多々あります。話を聞いて自分だけじゃない、周りもよくあるんだと知り、少し心が軽くなりました。
- ・自分もあのようにして生まれてきたのだなぁと思うと何とも言えない感情になり、胸が高鳴るような感じがします。
- ・今回、本物の妊婦さんが来てくれて、本物の子どもの心臓の音を聴いて、お腹の子も一生懸命生きているんだな、と感じました。

4) 参観された生徒の保護者の感想

- ・今回のお話はとてもなつかしく、そして我が子への性の話などとても勉強になりました。
- ・同世代の子たちが起こす悲しい事件がニュースで流れますが、簡単に人を傷つけてしまうのではなく、この授業をきっかけに、命の大切さ・尊さを考えてほしいと思います。

赤ちゃん講座

1) 実施日 平成29年10月4日(水)、5日(木)

参加者数 3年生 182人(6クラス)

講師 伊藤志保助産師

協力団体 七林中学校保護者ボランティア

2) 当日の様子



- ① 保護者ボランティアから衣服の脱がせ方を丁寧に教えてもらい、慎重に実習を進めていきました。
- ② 妊婦体験ジャケットを付けると、いつもは楽にとれる姿勢や家事が、一苦労だということがわかりました。
- ③ 本物の赤ちゃんを抱きかかえるように、首の後ろをそっと支えながら丁寧に抱っここの練習をしました。

3) 生徒の感想

- ・特に印象的なのはオムツを替えることです。赤ちゃんを傷つけず、オムツを替えることの難しさを知り、本当にオムツにおしっこやうんちがついていることを考えると、もっと難しそうだと思いました。
- ・妊婦さんを見かけたり、助けを求めていたら自分から率先して助けたいと思います。
- ・10か月近くもお腹に新しい命を抱えて過ごすというのは、大変だけど素晴らしいことだと思いました。そして改めて母に感謝しました。
- ・もし私に子どもができたときには、たくさんの愛情を込めて育てたいと思います。

4) 保護者ボランティアの感想

- ・生徒さんが赤ちゃんを優しく、時には緊張しながら接しているのが印象的でした。
- ・思春期の時期にこのような体験ができたのは、とても素晴らしいことだと思いました。
- ・優しい気持ちを忘れずにこれからの成長に期待します。

赤ちゃんふれあいタイム

1) 実施日 平成 29 年 11 月 24 日(金)

場 所 薬円台児童ホーム

参加者数 生徒 44 名、乳幼児親子 34 組、教員 2 名

2) 当日の様子



- ① たくさんの方々にご協力いただき、総勢 110 名以上の参加となったふれあいタイム。たくさんの出会いが生まれ、大盛り上がりでした。
- ② 「どんなおもちゃが好きかな」と生徒たちは一生懸命、赤ちゃんの喜ぶおもちゃを探していました。
- ③ 家庭での奥さんへのサポートの仕方など、男同士ならではの内容に、話がはずみました。
- ④ 初めての授乳に挑戦しました。赤ちゃんがミルクを美味しそうに飲む姿に、生徒は癒されていました。

3) 生徒の感想

- ・受験のこととかでイライラしてたときもあったけど、赤ちゃんと遊んでイライラが吹っ飛びました。
- ・すごく幸せそうな感じがお父さんから感じられて、僕がお父さんになったら、奥さんを少しでもサポートできるようにしたいと思います。
- ・赤ちゃんと一緒にいると幸せな気持ちになり、とても楽しかったです。
- ・赤ちゃんがみんなかわいくて癒されたし、お母さんから様々な話を聞くことができたので、勉強になりました。

- ・とても楽しくて、時間を忘れるほどでした。
- ・自分も幼い頃はこんなにも小さくて、遊んでもらってたと思うと、両親に感謝の気持ちを感じました。
- ・育児が大変でも、頑張ろうと感じられるのはきっと子どもたちの笑顔のパワーが支えとなっているんだなと思いました。
- ・自分がお母さんになったら、今日いたお母さん方のように優しくて良いお母さんになりたいです。

4) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・本当に気持ち良い時間を過ごさせてもらいました。船橋市のこの事業は本当に素敵なものだと思います。
- ・基本的に一人遊びに夢中になる息子にずっと付いて遊んでくれたのは、親の私でもあまりできないことなので本当に尊敬しますし、助かりました。
- ・学生さんたちが子どもたちに対して笑顔で対応してくれていて、見ているこちらでも安心して、うれしい気持ちになりました。
- ・今の現代、少子化・核家族化で上の子や下の子、地域の子どもの関わりが少なくなっているため、このような中学生と赤ちゃんとのふれあいはとても大切であると実感しました。
- ・一生懸命、子どもたちと関わろうとする姿に感動したと同時に、今の中学生はしっかりした夢をもってこちらが驚かされました。
- ・中学生たちが将来、今日のことを少しでも思い出してくれたら…子育てだけでなく、他のことに対しても新しいことや苦手なことに挑戦していったら…とてもうれしいです。

たくさんの出会い

薬円台児童ホーム職員

今年のふれあいタイムは生徒の希望参加数が40名を超え、またたくさんの乳幼児と保護者の皆様にご参加いただき、110名を超える大規模なイベントとなりました。ここでの経験や出会いが、生徒たちの糧となってくれることを願っています。

「中学生と赤ちゃんふれあい事業」を終えて

七林中学校 第3学年教諭 大澤 京子

1回目の「講話 大切な命」では、何人かの生徒が妊婦さんのお腹にふれて胎動を体感し、命の神秘に感動したようです。2回目の「赤ちゃん講座」では、オムツ替えや着替えの実習、擬似妊婦体験などを通して、妊婦さんやお母さん方の苦労を実感したようです。自分たちが今までたくさんの愛情をもって大事に育てられてきたことに気づき、親に感謝する気持ちをもった生徒も多くいました。「赤ちゃん講座」の体験から赤ちゃんへの興味関心が高まり、3回目の「ふれあいタイム」に44人も生徒が参加を希望したのは、職員としても驚きでした。「講話 大切な命」「赤ちゃん講座」がそれほどまでに生徒の心を動かす授業であったと言えます。教室では学べないような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

豊富中学校

赤ちゃん講座

1) 実施日 平成29年10月6日(金)

参加者数 3年生39人(2クラス)

講師 栗島寿恵助産師

協力団体 豊富地区社会福祉協議会、三咲地区社会福祉協議会

2) 当日の様子



- ① ボランティアの方に手伝ってもらいながら着替えの実習。赤ちゃん人形を本物の赤ちゃんだと思い、一つひとつ丁寧に行っていました。
- ② 妊婦体験ジャケットの実習では、想像以上の重さに生徒は驚いていました。妊婦さんの大変さが少しわかったようです。
- ③ 友達と協力しながらお世話をしました。緊張しながらも、かわいい赤ちゃん人形にふっと笑顔も見られました。

3) 生徒の感想

- ・ 今日初めて、しっかり赤ちゃんのお世話をしました。とても大変でした。こんなに大変な思いを1日中、毎日やっていた親のことを思うと、感謝しなくてはならないなと思いました。
- ・ 妊婦体験をやってみて、お母さんがどれだけ大変な思いをして産んで育ててくれたのかがよくわかりました。自分が将来、結婚して子どもができたら、サポートをしっかりとしたいと思います。

4) 地区社協ボランティアの感想

- ・ 中学生の皆様が真剣に赤ちゃん人形に接している姿に感動しました。私自身も今の中学生と接することができ、明るい気持ちになりました。この事業は素晴らしいので、いつまでも続くこと、多くの中学生が体験できることを願っています。

赤ちゃんふれあいタイム

1) 実施日 平成29年10月24日(火)、31日(火)

場 所 三咲児童ホーム

参加者数 生徒41名、乳幼児親子48組、教員4名

協力団体 豊富地区社会福祉協議会、三咲地区社会福祉協議会

2) 当日の様子



- ① 3年生全員を対象に、ふれあいタイムを行いました。生徒たちは、手作りのパペット人形を使って自己紹介。みんな緊張しています。
- ② 離乳食をあげる体験をしました。赤ちゃんと一緒に「あ〜ん！」自分の手から食べてくれて、女子生徒もとってもうれしそうでした。
- ③ すっかり仲良くなった男子生徒と男の子。息もぴったり、ハイタッチ！！
- ④ パペット人形を使って一生懸命赤ちゃんに話しかける生徒に赤ちゃんも少しずつ顔を向けてくれました。お母さんからは子育ての大変さ、楽しさなどたくさん話を聞くことができました。

3) 生徒の感想

- ・ 赤ちゃんと一緒に遊んでいるときにお母さんたちを見ていたら、すごくたくさん赤ちゃんに話しかけていました。私も前はこのようなしてもらっていたのかと考えると、すごくあたたかい気持ちになりました。
- ・ ふとしたときに出す声や話しかけたときの笑顔を見て、とても癒されたし、感動しました。私もこんな風に大切に育てたいと思ったし、自分も大切に育てられたんだと考えると、親に感謝しかないと思いました。

- ・最後に「お兄ちゃん好き」と言ってくれて嬉しかったです。また、小さい子と遊びたくなりました。
- ・今日の体験で、もっと保育士になりたいという夢が大きくなりました。自分が大人になってお母さんになったら、今日のお母さんたちのように素敵なお母さんになりたいです。

4) 地区社協ボランティアの感想

- ・中学生もママたちも笑顔になって終わり、お互い良い体験になったことと思います。私自身も素晴らしい時と一緒に過ごせて良かったです。
- ・中学生のみなさんが恐る恐る赤ちゃんとふれあう姿がほほえましく、またお母さんたちは、普段と違った表情を見せる我が子に喜びを感じている様子を見せていただき、大変良い時間でした。

5) 赤ちゃんの保護者の感想

- ・中学生が積極的に関わろうとする姿が素晴らしいなと思いましたし、一生懸命子どもと遊んでいただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・去年は泣いてばかりだったのに、今年は私から離れてお兄さんと楽しく遊んでもらって成長を感じられました。きっといいパパになるんだろうなと思いました。
- ・最近、人見知りを始めた6か月の娘ですが、笑顔で抱いてもらえました。抱いてくれた女子中学生の緊張した顔がとてもほほえましかったです。いつも2人の子ども相手に大忙し。遊んでもらえて自分も少し気を抜くことができました。
- ・普段、私と二人きりの時間が多く、今日はたくさん声をかけてもらえて子どもも私もとても楽しい時間になりました。
- ・普段なかなか中学生のお兄さん、お姉さんと関わる機会がないため、今回はとても良い体験をさせていただきました。お別れの際には、「やだ」というほどなついていました。

ふれあい事業を終えて

三咲児童ホーム職員

「中学生と赤ちゃんふれあい事業」を通して、生徒たちは自分がどのようにして生まれ、どのような想いで育てられたのかを知ることができたのではないのでしょうか。

これから様々な経験をしていくことと思いますが、今回の事業で感じたことや学んだことが、少しでも生徒たちの役に立てば幸いです。

「中学生と赤ちゃんふれあい事業」に寄せて

豊富中学校 家庭科担当 中村 砂斗美

「赤ちゃん講座」では、母への感謝と妊婦の大変さを実感し、命を守り育てる覚悟をもち、親になるということを考える体験になりました。「ふれあいタイム」では、最初は不安だった生徒も、手作り人形と共に向かったことで、笑顔と優しい声かけがあふれていきました。赤ちゃんとのスキンシップで心もほぐされ、愛情と命の重みを感じることができました。自身の成長を振り返り、未来を考える良い機会になりました。

児童ホームの皆様、栗島寿恵助産師、社会福祉協議会の皆様、協力してくださったお母様方に心より感謝申し上げます。



平成29年度 中学生と赤ちゃんふれあい事業 実施報告

平成30年3月 発行

発行：船橋市役所 健康福祉局 子育て支援部 地域子育て支援課

〒273-8501 千葉県船橋市湊町2丁目10番25号

TEL 047(436)2956

FAX 047(436)3416